

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	メリーライフ株式会社 グループホーム里の家千歳 ラベンダー	評価実施年月日	平成19年5月1日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名	野坂 栄子	記録年月日	平成19年5月1日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>開設時より事業所独自の理念を掲げており、現在もその理念の達成に向け取り組み継続中である。グループホームが個人様の家と感じられる事や、地域に根ざす事を目標とし取組んでいる。</p>	○	<p>理念は法人の運営方針にも深く繋がる部分である為、その理解と推進には常々指導教育を徹底しているが、入居されている全ての方の暮らしがより良いものとなるよう、今後も更にサービスの充実を図っていく。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>管理者は日頃から、申し送りやユニット会議等で理念や方針・目標等を日常的に話している。また、毎朝申し送りで理念の読み合わせをし、その共有・実践に向けて意識して取り組んでいる。</p>	○	<p>日頃の取り組みや、関わりについての評価や見直しを定期的に行なっていく。また、管理者からは必要に応じ理念に沿ったアドバイスをしてほしい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>地域やご家族様にどの程度理解され浸透しているかの判断は困難であるが、ホーム内の見易い位置への掲示やパンフレットへの記載及び運営推進会議内でもその内容に触れる事で理解が深まるよう努めている。</p>	○	<p>地域の方に過度の宣伝行為と受取られない程度で定期的な町内の集まり等で説明を行っている。また、ホーム内の見学案内の際にも理念について触れ、ホームの目的や機能についても説明を行っている。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>日頃から挨拶を交わしたり、野菜や花を頂く等一般的な近所付き合いを行い、地域の方々との触れ合いを大切にしている。</p>	○	<p>ホームの畑で採れた野菜を配ったり、地域の方も参加できる行事を立案する等、気軽に立ち寄れる雰囲気作りをしていく。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>地域のお祭りや幼稚園・小学校の行事、市民文化祭等に参加し、日頃から地域との交流を深めている。また、管理者は自治会の集まりにも参加し、関係を深める働きかけを行なっている。</p>	○	<p>散歩へ出かけ挨拶を交わしたり、地域の行事へ積極的に参加するよう心がけ、交流を深めていく。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>地域の様々な集まりや催しに参加し認知症について話しをしている。また、地域の方が集まれる機会としホームで夏祭り等企画実施しており、それらの集まりの中から事業所として取組める事の聞き取りにも努めている。</p>	○	<p>現状では事業所内の質向上と環境整備を推進する事が当面の目標としているが、これらについての更なる向上が地域貢献に直接繋がると考え今後も意欲的に取り組んでいく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>評価の意義を理解し、常に評価結果について改善向上意識が持てるよう各種会議でも評価項目を取り上げ、改善検討が成されている。</p>	○	<p>全体会議等でも各ホームの比較等を行っており、切磋琢磨出来るよう情報交換の場を設けている。</p>
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>2ヶ月に1度の開催をしており、各関係者様方との話し合いも円滑で実りあるものとなってきている。グループホーム全般の役割や細かな取組みに至るまで理解が深まりつつある。</p>	○	<p>話し合いの中で挙げた様々な意見を更に積極的に実施し、近隣への参加呼掛け等も推進していく事で運営推進会議の内容が実際に活かされている事を知って頂くよう努めていく。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市町村との連携について、本部職員が担当窓口として主な働きかけを行っており、その時々により事業所管理者等も行き来している。</p>	○	<p>今後も更なるサービス向上について市町村より意見を伺い、それらの意見を柔軟に受取り活かして行きたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>現在制度を利用されている方はいないが、制度の内容等について職員理解を深める努力はしている。内部研修及び外部研修でその内容周知にも努めている。</p>	○	<p>今以上に全職員の理解を深める為、都度の会議や研修参加等で知識を得られるよう努めていく。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>本部及び管理者より高齢者虐待の定義やその内容詳細について各会議で都度説明行っており、入居者様が外泊等された後にも身体確認等行う事で、ホーム内外での虐待防止に努めている。</p>	○	<p>今迄に虐待の事実はなく、ホーム内での安心した生活の支援を行えているが、今後更に諸対応に注意し虐待防止に努めていく。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時には時間を掛け各項目について説明しているが、契約前にも不安や疑問について解消出来る様対応行っている。入居申込みを受ける前に必ずホーム内見学案内も実施している。</p>	○	<p>利用される事での利点は勿論であるが、リスクについても十分説明し納得された上での入居を推進していく。グループホームの役割や機能について更に深く説明する事で理解を深めて行きたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	小さな訴えや不満等にも耳を傾ける姿勢をとっており、明らかに苦情と思われる事は速やかに所定書式にて管理者及び本部に提出し、迅速丁寧な解決に取り組んでいる。	○	現在苦情と捉えられる訴えはないが、今後継続して訴えを汲み取る姿勢で対応を行っていく。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時や定期的な電話連絡、月に1度送付する里の家だよりを通じて、入居者様の日常の様子をお伝えしている。金銭管理については使用の都度、ご家族様に報告し、毎月出納帳・領収書を送付し、内容を明らかにしている。	○	今後もご家族様とのコミュニケーションを深め、ホームでの入居者様の様子をより分かりやすくお伝え出来る様努める。また、写真やビデオを利用して生活の様子を知って頂く工夫もしていく。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設ける事で、話しづらい事への配慮を行っている。また、相談窓口への電話回線も設けており、受入体制を整えている。	○	家族様からの意見や苦情、不満等については本部に相談窓口を設けているが、面会事等に聞かれた訴えについても記録として残し対応検討する流れが出来ている。今後も同様の流れと対応を継続していく。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関する職員意見の反映については、毎週定期的本部職員が現場に入り各種会議の際及び日常業務の中で聞き取りを行い、その内容について本部で検討された後、必要と判断されたものについて反映されている。	○	入居者様の生活上必要な物品等の設備に関する職員意見が殆どであるが、随時改善対応行っており、より生活し易い空間作りにも努めている。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	特に入居時には、管理者及び計画作成担当者が勤務に当たるよう調整を行っており、それ以外の特変時についても必要な範囲内でシフトの組み換えを行う事もある。しかし、普段日常については全職員が同一の対応が取れるよう指導教育している為、勤務変更はない。	○	現状として縫う居者様の状態に合わせた職員配置は難しいと考える。しかし、全職員が可能な限り同一の対応を行える様教育する事で、ケアの質の向上を目指している。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	基本的に職員異動は極力無いよう勤務調整行っており、馴染みの関係作りの妨げとならないよう配慮も行っている。	○	職員の急病等の止むを得ない場合に限り一時的な異動はあるが、普段よりユニット間の交流も盛んである事から、ホーム内全ての職員と入居者様が顔馴染みの関係を築けている。今後ホーム全体の交流機会を持つていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>内部研修及び外部研修の受講推進を行っており、勤務上受講が出来なかった職員についても後日資料の配布等で、内容周知が成されている。また、本部職員による助言指導等も随時行なわれている。</p>	<p>○</p> <p>職員の指導教育は基本的には管理者、計画作成担当者を主としているが、方針の理解や制度的な事項については、本部職員からも会議等を通じ常時職員周知が出来ている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>市町村が主催する管理者会議や、事業所が加盟している協議会が主催する研修会等に積極的に参加する事で同業者との意見交換等が行われている。</p>	<p>○</p> <p>守秘義務等の兼ね合いもあり中々具体的な内容までは意見交換はなされないが、互いに困っている事や職員の質向上について同じ目線で話し合える関係を築いて行きたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>互助会の設置を行い忘年会や新年会等の実施を行っているが、職員のストレス軽減等についてはまだ不十分である。また、ハード面については建物構造上、職員がくつろげる空間の確保が難しく、それに伴う必要物品についても検討されている。</p>	<p>○</p> <p>今後、互助会だけでなく職員意見が更に聞き入れられる機会を本部で設けていくよう努めている。スペース的な問題は理解出来る為、その他の環境整備等で休憩時間のストレス緩和に努めていく。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員個々の経験年数や資格取得に応じて賃金に反映する事で向上心に繋げている。また、それ以外の日常業務内での取組みや個々の成長過程等も確認し、能力を伸ばせるよう個別指導教育も行っている。</p>	<p>○</p> <p>職員個々の評価を判断する為、日々定期的に本部が現場状況の確認を行っており、職員の努力や勤務姿勢について把握出来るよう努めている。また、向上心に繋がるよう多種研修会等への参加も推進している。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>事前の面談及び見学案内の際に不安な事や希望についても可能な限り聞取るよう努めており、本人様以外の親族の方にも情報提供依頼をし、本人様との関係が早期に身近なものと感じられるよう努めている。</p>	<p>○</p> <p>家族様と離れ独居及び入院されていた方の希望等の聞取りには困難を極める事もあるが、入居されてから密に関わりを持つ事で情報収集し、それにより得た情報を可能な限り早期に実現し満足度に繋げる努力をしている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>現在まで殆どの場合が事前の見学案内及び面談等で納得の上、安心して申し込まれており、その後の本人様の生活や職員対応について事業所側に任せて頂けている。また、些細と思われる出来事についても都度連絡する事で更なる安心感に繋げる努力をしている。</p>	<p>○</p> <p>初期に築けた信頼関係をより深められるよう、今後も密な連絡体制を継続し、本人様の生活風景や職員対応の疑問点等についても伺っていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人様とご家族様の希望が一致しない場合もあるが、その際は職員も含めた三者間で話し合いを持つよう努めている。支援の優先度についてもケアプラン上でも説明行い、専門的な見地からもご家族様にアドバイスしながら決定している。	○	相談時にはまず、本人様及びご家族様にグループホームが自立支援の場である事の理解を深める事に努めており、それらの理解を元に優先的な支援について希望を聞取っている。今後も対応継続し、必要支援の見極めを行っていく。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人様が安心感を得られる対応や環境について、本人様及びご家族様、諸関係者様より情報収集行い、早期に馴染みの関係が築けるよう努めている。本人様が納得されるまでに時間が掛かるケースもあるが、ご家族様にも外泊や外出等のご協力を頂き対応している。	○	本人様の意思確認が明確に出来る方とそうでない方がいらっしゃるが、特に意思確認が困難な方について満足度や安心感を理解把握する事にも努めている。新たな情報を知り得た場合の迅速な対応について今後も継続し実践していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	料理、裁縫、畑仕事等の場面で、入居者様に教えてもらいながら一緒に活動する事で、ともに支えあったり楽しんだりする関係を築いている。また、常に入居者様の気持ちに寄り添い、喜びや悲しみを共有できるような接し方に努めている。	○	そのような場面を一人一人に対し、入居者様が役割があると実感でき、ともに支え合う関係作りをしていく。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	事業所側の対応として細かな情報の伝達をご家族様に行う対応を継続しているが、各ご家庭の事情もあり全てが円満であるとは言えない。しかし、多種行事の呼掛け等で本人様と関わり合える機会の提供にも努める事で、関係が深まったケースもある。	○	協力的なご家族様とそうではない方との開きはあるが、長く生活を共にし密な連絡体制を継続する事で少しでもケアに関心を抱いて頂けるよう努めていく。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	事業所側は第三者という立場であり、深く踏み込めない事情も多々あるが、間接的にも本人様とご家族様との距離が縮まるよう取組みを行っている。	○	ご家族様には伝わらない本人様の思いや意向を職員が汲み取り、分かり易く説明する事で少しでも関係の改善を推進していく。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様の協力を得ながら途切れないよう面会や外出を行っている。	○	馴染みの人や場所の現状等についてご家族様より入居者様に伝えて頂ける等、日常的な会話の中に盛り込まれている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者様同士助け合い、思いやりの気持ちを持って生活できる様日頃から言葉にして伝える様にしている。自然と仲良しの関係が出来ている為、そこに入れない方には交流の機会を作り、皆が楽しく過ごせる様配慮している。	○	世話役の方が相手の方に干渉し過ぎたり、介助をしようとする事がある為、必ず職員が見守り・声掛けをし、世話役の方の気持ちを尊重し、その方の力を発揮出来るよう配慮している。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居となられる際には事業所側で次の行き先について責任を持ち支援させて頂いており、退居された後もご家族様が遊びに来て頂ける等の関係が築けている。	○	退居された方が入院されている病院や施設に立寄った際には、可能な限り声を掛ける等の配慮を行っている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃のコミュニケーションや観察、ご家族様からの情報収集等により一人一人の希望や意向、どのような事にどう反応をするか等の把握に努めている。そして入居者様の思いや意向を踏まえ、食事やレク・行事に取り入れたりし、身近に出来る事から実現できる様努めている。	○	意思疎通困難な方の場合、十分な把握は出来ていないと感じる。本人様の表情やしぐさ・反応等の細やかな変化を観察し、出来る限り思い・意向を汲み取り、ケアに活かして行きたい。また、入居者様が自らの意向・希望を気軽に話せる関係を作って行きたい。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時の書類や関係者からの情報収集・本人様・ご家族様からの聞き取り等により把握に努め、ホームにおいても、これまでの生活を出来る限り継続出来るよう工夫・配慮している。	○	情報収集が充分出来ていない方もいる為、今後より一層の知る努力を続け、入居者様の今の状態・生活だけを見るのではなく、長い人生のいろいろな経験や習慣を知り、これからのケアに活かしていきたい。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者様のコミュニケーション・介助・観察・バイタルチェック・記録・申し送り等により、様々な面からの現状の把握に努め、ユニット会議で定期的に個別のケアカンファレンスを行なう他、何か変化があればすぐに対応したケアを提供出来る様心掛けている。	○	現状の正しい把握が、その時必要なケアは何かを知る事に繋がる為「今迄こうだったから」等の思い込みや決め付けはせず、常に変化を見逃さずに臨機応変な対応をしていきたい。また、総合的な把握には多くのスタッフの様々な視点による情報収集が不可欠な為、連携を蜜にしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ユニット会議、日頃の意見交換により全ての職員の気付きや意見を取り入れて計画を作成し、それに基づいたケアの実践をしている。また、日頃から入居者様・ご家族様の意見、希望を聞くようにしそれを計画に反映できるよう努めている。	○	今後も常に話し合いをもとに多くの意見やアイデアを計画に反映して行く。また、入居者様やご家族様が意見を言いやすいような雰囲気作り、信頼関係の構築に努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	明示した実施機関の終了時だけでなく、状態の変化や入退院等があった時にも随時話し合いの場を持ち、計画の見直しを行なっている。	○	常に入居者様の変化やニーズを見逃さずに必要に応じた見直しを行う事で、現状に即した計画の作成に努める。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	入居者様一人一人の特徴や変化、ケアの内容や結果等を具体的に個別記録に記入し、職員間で共有する事で日々のケアや計画作成に活かしている。	○	入居様を様々な側面から見て、より具体的な個別記録にしていけるよう努める。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	入居者様及びご家族様の希望を聞き取り、可能な限り希望に沿ったサービス提供と支援を行うよう努めている。その時々々の意向の変化に迅速に気付けるよう関りを深めている。	○	事業所側の対応とし様々な要望に応える心構えは出来ているが、まだ十分に要望等を引出せているのか判断が難しい為、今後も継続して関りを深める対応に努めていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域ボランティアの方による行事や消防署による避難訓練等で協力を得られている。また、近隣学校とも関係が深まっており、互いの協力体制が築けてきている。	○	開設時より地域に根ざした感が実感としてあり、地域の方々からの呼掛けや、事業所側からのお誘いについて円滑な交流が行なわれるようになっている。入居者様意向の実現も地域の方々のご協力で実現する頻度も増加している。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域のケアマネージャーに相談する機会はないが、医療機関等のソーシャルワーカーに相談する事は多々ある。本人様やご家族様の意向を十分聞き取った上、他サービス活用について検討するよう努めている。	○	同法人で運営する他事業所のケアマネージャーとケース等について相談する機会があり、事業所の機能を十分活かし本人様のより良い生活について検討が行えている。今後も更に同様の取組みを継続していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議を通じ、包括支援センターの方からのアドバイス等受けられるようになっている。具体的内容の話しになるケースはまだ少ないが、必要性に応じて協働していく考えである。	○	具体的事例がまだない為判断は難しいが、今後も運営推進会議内だけでなく、その必要性に応じ随時協働して頂けるよう関係を深めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入居者様・ご家族様の希望がある場合は、その希望の医療機関を受診し、それ以外は協力医療機関を受診し希望に添った適切な医療を受けられるよう支援している。	○	今後も入居者様・ご家族様の希望を取り入れていく。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医療機関を確保しており、医師・看護師は認知症への理解がある為適切な指示・助言をもらえる体制が出来ており、受診時に様々な配慮をしてくれている。	○	今後も現在の関係を継続していけるよう協力し、専門的なアドバイスをもらい、ケアに活かしていく。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力医療機関の看護師に訪問診療、受診の際に相談しアドバイスを受ける事で、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	○	今後も気軽に相談できる関係を継続し、連携を図っていく。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した場合、入居者様の日常の生活状況やケアについて情報提供や相談をし、また早期退院の為に話し合いや退院後の経過観察についてもアドバイスを受け、連携をしている。	○	今後も早期退院に向け、連携して行く。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ターミナルケアについて事前にご家族様及び本人様意向を確認する事に努めているが、時として思いの相違は伺える。その場合についても専門的な立場から助言等させて頂く事で現在まで円滑にターミナルについてのご理解等が得られている。	○	今後、更にターミナルケアを望まれる方が増える事が予想される為、職員個々の知識や技術の向上に努め、いかなる場合においてもスムーズにターミナルケアが行える状態であるよう日々スキルアップに努めていく。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	チームケア全般において職員個々の能力差を可能な限り縮める為、日々の業務内及び各種会議や研修の場を利用し知識、技術の共有が出来よう様努めている。また、連絡事項等も正確に伝わるよう確認の徹底を図っている。	○	チームケアの向上については様々な要素があり、個々の能力、職員間の声掛け、情報収集、情報共有その他にも多々あるが、これらが全て円滑に出来、十分な内容が伴う事でチームとして力を発揮出来るという事を今後も職員指導の一環として行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	入退居時の精神的な不安やストレスを軽減できるように、本人様に関わる関係者と充分情報交換を行い、サポートしている。	○	今後もダメージを防止する為に、ご家族様や本人様に関わる関係者と連携し、支援して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	入居者様一人一人の誇り、プライバシーを守り常に本人様の気持ちに配慮した言葉かけ・対応をする様努めている。特に排泄の声掛けは近くでさり気なく行い、排泄に関する職員間の連絡も紙に書いたり、周りに分からないよう配慮している。	○	記録等はホームのテーブルで行なっている為、名前を伏せたり、入居者様が気にしなくて済むような工夫・配慮が必要。声掛けは排泄に関してだけでなく、体調に関することや本人様の行動を修正したり、促したりする際も必ず必要以上に大きな声にならない様気をつけたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	食べたい物・行きたい所・してみた事等の希望を出来るだけ表出して頂ける様働きかけ、日々の生活やレク・行事に取り入れる様努めている。また、認知度に合わせ、絵や写真・本・テレビ等を利用して情報提供し「自分はこれが好き・したい」という気持ちを汲み取る工夫をしている。	○	意思表示が難しい方には、自己決定・自己選択の場面が少なくなってしまう為、言葉以外の部分からご本人を理解する努力をし、一人一人の思いや希望を形にしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様一人一人のペースを大切にし、希望に添った過し方が出来る様心掛けている。共同生活の場である事もあり、食事・入浴等はある程度こちら側でペースを作らせて頂く事はあるが、その分ユニット全体がゆったりとした雰囲気になるよう配慮し、個々の余暇時間には個人のペースで希望を尊重するよう努めている。	○	その人らしい暮らしを提供するには、まず一人一人が希望する過し方・生活ペースがどのようなものかを知る必要がある。各職員が入居者様とのコミュニケーションを深め、その人らしさと言うものを表出して頂ける様支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	好きな服を選んで頂いたり、外出時にはお化粧品をして頂く等をし、お洒落をする気持ちを忘れない様な支援をし、一人一人の個性を出せる様努めている。理容・美容は本人様・ご家族様の希望に合わせ、利用の支援をしている。	○	入居者様一人一人の好みを把握し、納涼区や状態に合わせ、その人らしいお洒落の支援をしていける様努める。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	入居者様一人一人の好みを把握し、献立に取り入れ食事作りの前や買い物前に希望を聞いている。準備や片付けにも参加して頂き、共に行い食事が楽しみなものになるよう働きかけている。	○	食事内容の工夫や声掛け、雰囲気作りにも配慮し、また買い物にも出来るだけ一緒に行って頂ける様努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物・おやつは好みの物を日常的に楽しめる様提供している。飲酒については、お正月・お祭り等の行事の際に少量を飲んで頂く事はある。喫煙についてはホームの方針として全面禁煙となっており、入居者様・ご家族様に説明し、理解を得ている。	○	今後も好みの物を状況に合わせて提供し、日常的に楽しめる様支援していく。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個人の排泄パターンを把握し、自立に向けた排泄支援を行なっている。おむつ使用者についても日中は極力おむつを外し、排泄パターンに基づいた排泄声掛け、誘導を行なっている。	○	おむつを出来る限り使用しなくて済むよう、また使っている方もその使用時間、頻度を少しでも減らせる様排泄の自立へ向けた支援を行なっていく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴時間や順番は出来る限り、本人様の希望を取り入れ、くつろいだ入浴が出来る様支援し週2～3回は入浴を行なっている。	○	入居者様一人一人の希望に添った、気持ち良い入浴が出来る様今後も支援して行く。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	夜眠れない方には、日中の運動や集中して取り組める趣味活動・レク等を増やしたり、就寝前にリラクゼーションの取り組みを行なっている。また、一人一人の生活リズムや体調・精神状態に合わせて、居室やソファで休んで頂く等の休息の支援を行なっている。	○	今後も一人一人の睡眠パターンを把握し、安眠できる支援を行なっていく。休息についても個別の対応が出来ていると思われる為、今後も継続していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食事作り・掃除・洗濯物仕分け等の家事参加、ポスター作りや歌・踊り・縫い物等、一人一人の個性を活かした役割、楽しみ事、活躍できる場面の提供をし、張り合いや喜びを感じられる様支援している。	○	一人一人の得意な事、輝ける場面を知り、それぞれの役割・楽しみ事を提供できる様努める。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人様による金銭管理は難しいが、定期的買い物に出かける機会を作り、希望に応じてお金を使える様支援している。	○	買い物に出かけたときには、本人様の財布にお金を入れ、自分で支払いをしてもらい安心や自信に繋がる支援をしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	暖かい時期は散歩や近所のスーパーへ買い物に出かけ、また地域の行事等に積極的に参加しホームに閉じこまらない工夫をしている。	○	冬場は比較的ホームに閉じこもりがちになる為、安全に配慮しながら出来るだけ外出の機会を作る様努める。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	一人一人が行ってみたい所を把握するよう努め、行事立案の際に希望を取り入れたり、ご家族様と共に出かけたりしている。	○	今後は更に可能な限り、個別対応をしていきたい。また、行事にはご家族様の参加もして頂き共に出かけられる機会を多く作りたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙は入居者様の能力に応じて、書く時に見守り・声掛けをしたり、代筆をしたり、投函の代行をする事で日常的に手紙を出せる様支援している。電話は取次ぎの介助、見守り、代わりに話す等の支援をしている。その際は、いずれもプライバシーに配慮すよう努めている。	○	今後も要望があった場合にはプライバシーに配慮しながら、能力に応じた必要な支援を行なっていく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族様や馴染みの人が気軽に訪問でき、入居者様と共にくつろげる様な雰囲気作りを目指しており、いつでも歓迎の気持ちで迎える様にしている。	○	今後も居心地良く過せる雰囲気作りに努め、気軽にコミュニケーション・情報交換等が出来るような関係作りをしていく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	運営及び全ての職員が正しく理解しており、身体拘束をしないケアの実践をしている。	○	今後も身体拘束のないケアを実践して行く。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入口はやむを得ず施錠している。ご家族様・入居者様に対し、理由は説明し了承を得ている。今後、職員全体が外出の際の危機感や、その他の安全確保についての認識を更に深める事で、施錠緩和に努めたい。	○	鍵を掛ける事による心理的圧迫を少しでも軽減できるよう、鍵の部分をカーテンやシールで隠し、目立たなくする工夫をしている。時間帯によっては見守りを強化する事で、鍵を開けておける環境作りに努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は調理や記録等をしている時も、常に入居者様を見守れる様気をつけ、その様子を把握しながら声掛けや、介助が必要な時には素早い対応が取れる様努めている。	○	職員同士声を掛け合い、それぞれの持ち場に責任を持つようにし、一箇所に固まらないでユニット全体の様子が把握出来るように努める。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬・洗剤・刃物等は、使用時以外は決まった保管場所に保管する事になっており、そのとおりに実行している。個人の持ち物については、一人一人の状況に合わせて管理方法を検討し、対応している。(爪切り・はさみ・裁縫道具・食器等)	○	今後も一人一人に応じた対応をし、安全を確保して行く。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日頃から一人一人の状況に応じ、起こりうる事故を想定して、それを未然に防ぐ為の対応をしている。また、事故が起こった場合は状況・経過・改善策をまとめている。改善策は職員間で話し合い、事故発生の要因を詳しく検証した上で、内容を検討し再発防止に努めている。	○	事故再発を防止できる様、事故報告書を活用して行く。また、ヒヤリハット事例を基に事故を未然に防ぐ為の対応策を練る。
70 ○急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	定期的に救命講習や避難訓練を実施している。また、緊急時の対応マニュアルがあり、全職員がその内容を熟知している。	○	今までの事故や急変等のじれを基に。より具体的な対応マニュアルを作成して行く。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の消防訓練の実施により災害対策について全職員が周知している。また、訓練内容についても都度状況を変え様々なケースを想定し実施している。	○	近隣の方々の協力体制についても運営推進会議を通して理解が深まってきたと感じる。今後更に訓練の中で緊張感を持ち、実際の災害を想定した様々な状況下での職員対応を養っていきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時及び都度の連絡の中でもリスクについても説明を行っている。自立支援を推進していく上でグループホームの機能を理解して頂けるよう努めており、現状としてご理解は得られている。	○	自立支援を行う上でのリスクは特にプライベート空間で発生するケースが殆どであるが、入居者個々人様の生活スタイル等を把握し安全な環境整備に努める事で可能な限りリスク幅を軽減していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝のバイタル測定・観察により、小さな変化も見逃さず早期発見、早期対応できるよう努め、変化や異常のサインは記録し、他職員へ速やかに申し送り、その後の状態観察・対応に繋げている。	○	今後も迅速に適切な対応を取れる様努める。自ら訴える事の出来ない方については、特に注意して観察して行く。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者各々人様の服薬内容について全職員が把握している。研修課題としてもこの内容に取組み、全職員が報告書として個別の薬内容について確認しており、その報告書を自らの資料としている。	○	服薬管理については業務の一流れとして捉える事なく、複数の職員が確認出来、責任の所在についても明確としている。また、服薬方法も法人で取り決めた統一対応を行っている。今後更に処方箋変更時等に十分注意し対応継続していく。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便チェック表を用いての排便状況の把握、その原因や影響の理解に努め、食事・運動の両面から働きかけにより自然な排便を目指している。状況により下剤の調整を行なっている。	○	今後は便秘の原因、その及ぼす影響をより深く理解出来るよう努め、食事・運動への取組みにより便秘せず、自然な排便が出来るよう支援して行く。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	介助を要する方には、毎食後の義歯洗浄・歯磨き・うがいのケアを行い、自力で出来る方には声掛け・見守り、時々手伝って汚れを確認する等をしている。また、夜間はポリドント洗浄をし清潔保持に努めている。	○	今後も一人一人の能力・状態に応じたケアを行い、清潔保持に努める。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人の食べる量・栄養バランスを考えた食事提供を行い、一日の食事量・水分量を記録し、摂取状況の把握に努め、状態に応じた支援をしている。	○	糖尿病の方には、主食少なめで提供する等の個別の対応も行なっている。今後も一人一人に合わせた対応を継続して行く。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策に関するマニュアルや資料が配布されており、それに基づいて予防の為の実践をしている。また、入居者様には毎年インフルエンザの予防接種を受けて頂いている。	○	今後も感染症に関する研修会等の参加により情報収集を行い、その内容を職員間で共有する事で予防に努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所用品等は毎日漂白し、清潔・衛生を保っている。食材はこまめに買い物に行き、常に新鮮で安全な食材を使用し、冷蔵庫内は定期的に点検・整理している。	○	今後も衛生管理を徹底し、食中毒の予防に努める。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	季節の草花を植えたり、また日頃から周囲の環境を綺麗に保つようにし、親しみやすく安心して出入りできるよう家庭的な雰囲気を作る様心掛けている。	○	今後も親しみやすく家庭的な雰囲気を作れるよう努める。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間は日頃より清潔の保持に努め、装飾等は過度にならない程度に生活感・季節感を取り入れて、明るく家庭的な雰囲気にし居心地の良い空間作りに努めている。また、照明・音の大きさ・快適なものにする様心掛けている。	○	今後も入居者様にとっての快適な空間作りを工夫して行く。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間は広く・明るく、入居者様数名でも、またお一人でもくつろげる様に複数のソファやテーブルを配置の仕方に配慮し、設置している。	○	入居者様それぞれの生活スタイルや、他者との関わり方等をよく観察・把握し、皆さんにとっての過しやすい空間を作れるよう努力して行く。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居以前より使用していた馴染みの家具や生活用品を持ち込んで頂き、本人様・ご家族様と相談しながら一人一人の個性が活かされた居心地良い居室となるよう工夫をしている。	○	今後、生活用品や家具等を購入する際には本人様の好みや習慣等を取り入れ、その方らしい居室・生活を提供して行く。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気には常に気を配り、暖かすぎず寒すぎず、その季節に応じた適温を保つようにし、また臭いや空気のよどみにも気をつけている。また、入居者様の状況・居室の位置による室温差にも配慮し調整を行なっている。	○	入浴後、就寝等には特に温度・湿度の調整に気を配っている。各居室にも温湿度計を設置、ホールでは加湿器・扇風機も使用している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	現在事業所内には必要箇所の手摺り等が設置されており安全な環境であると言えるが、身体介助の必要性がある方が多い為、設備を使用するより職員対応によるものが殆どである。	○	今後、入居者様個々の身体状況や認知力に合わせた環境整備に努め、入居者様が自身の能力を活かして生活出来る環境を目指したい。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱や失敗を招くような状態、その要因となるものを把握し、その様なものが認められる場合はすぐに状態を改善できるよう対応している。	○	今後も一人一人の分かる力を活かして、自立して暮らせるよう環境作りに配慮して行く。
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ホームの敷地内に畑があり、苗植え・水まきや野菜の収穫等に入居者様も参加している。また、ホームの周りの花壇を見ながら散歩を楽しむ等している。	○	今後もホームの外周りや空間を活かして、入居者様が楽しめる活動を多く取り入れていく。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている ○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ○ ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ○ ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>○</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>○</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)